

大学生の YouTube の教育動画の利用の現状とその意識 —半構造化インタビューによる調査を通じて—

加藤 香織

YouTube は利用者が自由に自作の動画を投稿・共有可能な UGC 型の動画プラットフォームである。現在 YouTube 上には膨大な数・種類の動画が共有されており、また多くの人々にそれらの動画は自由に視聴されている。その中には教育や学習に利用できる動画が存在しており、多くの人々に学びの機会や自分のニーズやレベルに合った学習の可能性を広げた。教育系 YouTuber (EduTuber) は教育や学習に関する動画を制作・投稿している個人であり、日本でも教育・学習で教育系 YouTuber の動画が多く利用され、教育のデジタル化や学習者主体の学習が目指されるなかでその重要性は増している。しかし、日本において教育系 YouTuber の動画の利用や大学生の YouTube の学習への利用について調査した研究は数少ない。

本研究では海外の先行研究を参考に半構造化インタビューを行い、大学生の教育系 YouTuber の動画の利用場面や学習ニーズについて具体的に調査を行うことで、学習者が教育系 YouTuber のどのような点を良い悪いと感じているか明らかとし、今後の教育動画や教育プラットフォームの向上に役立てることを目指した。

本研究では筑波大学に所属する大学生・大学院生 15 名に半構造化インタビューを実施し、教育系 YouTuber の動画の利用経験や印象について質問した。結果、15 名のうち教育系 YouTuber の動画を使用したことがある学生は 14 名、全く利用したことがない学生は 1 名のみであった。そのうち、学習目的で利用したことがある学生は 12 名（うち大学入学後に利用していた学生 9 名）であり、授業の解説の補完やテスト・受験対策、レポート準備等の場面で利用していることがわかった。また、娯楽目的で利用したことがある学生は 12 名であり、大学生になり一人暮らしで余暇が増えてから YouTube の利用が増える中で教育系 YouTuber の動画を楽しむために見る学生が増えたことがわかった。また、教育系 YouTuber の動画を学習に用いることに消極的な学生には YouTube が娯楽のためのメディアであるという意識があり、YouTube に対する印象が教育系 YouTuber の学習利用に影響することが考えられる。また、審査がなく個人の教育系 YouTuber の動画の信頼性を判断する材料として動画のコメント欄での評価や指摘が利用されていることがわかった。

本研究では大学生が教育系 YouTuber の動画の視聴の際にスキップや倍速再生等の機能を用いて知りたい情報を早く見つける、再生リストや視聴履歴を用いてわかりやすかった解説を何度も見返せることに使いやすさを感じていることがわかった。これらの知見は今後の教育動画や教育プラットフォームの開発に活用できると考える。

(指導教員 大澤 文人)